情報公開文書

2023 年 8 月 24 日作成
Ver.6

敗血症性ショックを契機に ICU に入室した患者の人工呼吸器期間と口腔内分泌量との関連：単施設後方視的検討

1、研究の目的と意義

人工呼吸器管理中の患者さんでの誤嚥性肺炎の発生率は高く、治療期間の延長や医療費の増額と関連します。そのため、一般的な予防策として頭高位、口腔ケアなどが挙げられますが、人工呼吸管理中の過鎮静は誤嚥リスクの増加、口腔内分泌物の抑制による口腔内常在菌の増加に繋がるため、過鎮静の回避も人工呼吸中の肺炎予防に重要とされます。一方で、呼吸状態や循環動態が悪化している重症な患者さんでは、呼吸管理や循環管理の一環として鎮静が長期間必要となることが多いです。このような患者さんでは、鎮静薬の減量・中止に伴い口腔内分泌物が増加することがあり、それによって人工呼吸器離脱が困難となる症例、人工呼吸器離脱後に口腔内分泌物を誤嚥してしまい酸素化が悪化する症例を経験します。この理由として、鎮静による口腔内分泌物の抑制の代償反応として過剰分泌が起こっているのではないかと考えられますが、これまでに人工呼吸器管理中の鎮静薬の種類や投与量、投与期間が、鎮静中止後の口腔内分泌物を増加させるかどうかを検討した報告はありません。また、ICU へ入室する敗血症性ショックをきたした症例では人工呼吸器期間が長い傾向にあり、口腔内分泌の制御に難渋することが多々あります。

そこで我々は、敗血症性ショックを契機に ICU に入室した患者さんの人工呼吸器期間と口腔内分泌量との関連性について調査を行います。

2、対象となる患者さん

2015 年 7 月 1 日から 2022 年 10 月 31 日の期間に長崎大学病院で敗血症性ショックのためＩＣＵに入室した患者さんの中で人工呼吸器を装着した患者さんが対象です。

3、研究の方法

電子カルテを用いて、対象期間内に敗血症性ショックでＩＣＵに入院し、人工呼吸器を装着した患者さんを検索し、検索された患者さんについて電子カルテから下記の情報について調査します。

4、研究に用いる情報

患者背景（性別、年齢、身長、体重、BMI）、基礎疾患の有無（心血管疾患、脳梗塞、呼吸器疾患、高血圧、糖尿病、肝疾患、腎疾患）、人工呼吸器装着期間、ロートエキス（使用の有無・使用期間・使用量）、鎮静薬（種類・使用期間・使用量）、持続的血液濾過透析（CHDF）施行の有無、polymyxin-B direct hemoperfusion（PMX-DHP）施行の有無、ステロイド投与の有無、合併症の有無、血液検査（WBC、CRP、IL-6、プロカルシトニン、コルチゾール、乳酸値）、sequential organ failure assessment（SOFA） score、ICU 滞在期間、入院期

間、治療経過、起因菌（血液、痰培養結果）

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2025 年３月 31 日

6、外部への情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

≪研究責任者≫

長崎大学病院　麻酔集中治療医学　小野雅晃

8.お問い合わせ先

長崎大学病院　麻酔集中治療医学　小野雅晃
〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号
電話：095（819）7370　　FAX　095（819）7373

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室　095（819）7200

受付時間　　：月～金　　８：30～17：00（祝・祭日を除く）